

個人山行 焼岳

2014年7月12日(土)

岡本単独

焼岳は、小さい時から何度となく眺めているが、今まで登ろうという気の起こらない山だった。幼い頃、父が穂高で盲腸になり、救急搬送の後暫く上高地に残った。たっぷり水を湛えた大正池から、多くの枯れ木越しに見た、噴煙を吹く山、それが焼岳だった。それが原風景で、焼岳とはそのように眺める山だと思っていた。

多くの枯れ木は倒れ、大正池もどんどん小さくなり、風景は随分変わった。それでも、百名山などというブームが起こらなければ、やはり眺めるだけの山だったと思う。

いつものように前夜に家を立つ。平湯温泉のターミナルで仮眠し、少し明るくなったところで中ノ湯の登山口に向かう。4時半頃に登山口に着くが、既に駐車場は満杯だ。おまけに30~40人余りの団体が既に出発準備をしている。

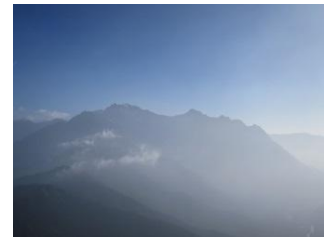
登山口からは樹林帯が続く。暫く行くと団体に追いつく。声を掛けるが、少し待てと言う。少し広くなっても前に行かせてくれない。又、声を掛けるが、何時までもだらだら登っていく。仕方なく、少し前に出てトップに通すように言う。大人数なので一々通していたら自分らが進めないと思っているのかもしれないが、何十人も一緒に歩くこと自体間違っている。折角の登山が台無しである。百名山はこれだから困る。

グループの前に出ると、爽やかな早朝の登山道が続く。やっと山にきた気分になる。1時間程歩くと樹林帯が開け、焼岳が見えてくる。その辺りから景色が一変し、アルプスらしい、ガレた道と高山植物、そして雄大な景色の見える世界になる。暫く行くと南峰と北峰を正面に眺めながらのコースとなる。登山客も殆どいないので、ゆっくり景色や写真を楽しんで歩く。

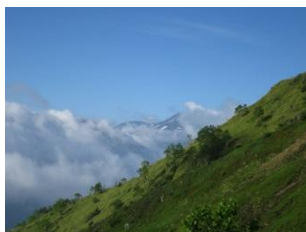


カールのようなガレ場を登り切ると南峰

と北峰の分岐だ。南峰への道は×印と簡単なロープがある。取り敢えず、ガスの吹き出している北峰に向かう。尾根ルートから逸れて少し登ると北峰の山頂だ。360度の大パノラマだが、



周囲の山はうっすらと朝靄に包まれていて、穂高や笠ヶ岳は霞んで見える。上高地方面は霞の中ではっきりとは見えない。静かな頂上でゆっくり景色を楽しみながら朝食を取る。



下山し始めると、次から次へと人が登ってくる。時間も十分あるので南峰に登ろうかと思ったが、一応進入禁止だし、人の目もあるので何となく気が引け、止めにした。霞も徐々に晴れ、今までより周辺の山もくっきり見えてくる。小学校の時初めて山の感動を覚えた乗鞍岳も最後にちらっと見えた。登るつもりは無かったが、ふと思いついて登ってみて、中々感慨深い山だった。

<コースタイム>

4:40新中ノ湯登山口発→5:40樹林帯終わり→6:25南峰・北峰コル→6:38北峰頂上(6:55発)→8:23下山(登山口)